



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年01月29日号 NO.446

写真提供：大山市

Subject：街中と書籍 TSUTAYAと小布施の取組

郊外大型書籍・レンタル大手のTSUTAYA。大曲にもありますが、このTSUTAYAが近年店舗運営のみならず、エリア作りに積極的に取り組んでいるそうです。田舎にしてみれば、街中の書店の存続を非常に厳しくしている郊外大型書店ではありませんが、彼らは「従来型の郊外大型商業施設の時代は終焉に向かい、これからは同じ大型施設でも、買う場所としての大型ショッピングモールではなく、「人が集い、交流し、文化を育み、時間を過ごすためのスペース」が重要視されるであろう」と言っています。これはしっかり耳を傾けるべき方向です。お客様より要望のあった業種を集めて彼らが作った新しいエリアの形【代官山TUTAYA】は内外から非常に注目されています。地方に於いても街中が地域の方々へ提供すべきエリアづくりの一つの方向性だと思えます。

佐賀県武雄市では樋渡市長が英断し、日本で先駆けて市立図書館の運営をTSUTAYAを経営するCCC（カルチャーコンビニエンスクラブ）に委託しました。未だに賛否両論が続いている武雄図書館ですが、従来の図書館の概念を破った形態と運営手法は、市民には非常に好評であり、小さな街ながら、年間利用者数目標50万人を半年でクリアしています。年間1億円以上の委託費ですが、直接運営していた時より1割の経費削減も同時に実現しているそうです。

長野県小布施では、町立図書館「まちとしょテラソ」、そしてNPOオブセリズムが運営する「おぶせまちじゅう図書館」活動が進んでいます。

単に本を貸し出す場所ではなく、「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」という4つの柱による「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもとで建築された小布施町立図書館。「本を貸し出す業務」だけにとどまらず、この場で未来を担う子どもたちが世界を感じ、飛び立っていくための支援や、なにかを創り出すひとの支援を通じ、町内外のひとびとの生涯学習の拠点としての「図書館」を目指し、図書館から街をデザインすることを目的としているそうです。それ以外にも、北海道や千葉県など、本をコミュニケーションと地域づくりのツールとして注目し、取り組んでいる街・商店街が全国でどんどん増えている様子。

私たちの商店街では、和装はきもの・着物 加藤さんが先んじて、独自に店内に本を置くことをスタートしています。本の文化を各々の店先で伝えることで、街と人の文化度を本を一つの切り口に上げていきたい。先ずはお金をかけずに自分たち出来ることですよ。良いことを真似して取り込んで行くことにいささかの迷いありません。但し猿真似ではなく、当地の実情と目指すべき将来像に照らし合わせながら、皆で考え、取り組んでいきたい本との付き合い方です。